



又吉嘉例記者(右)から記事の書き方についてアドバイスを受ける参加者=18日、那覇市・沖縄タイムス社

# 沖縄戦体験 記事化学ぶ

高校生と大学生が沖縄戦体験者にインタビュウして記事を書く「次世代継承ワークショップ」が18日、那覇市の沖縄タイムス社であり、参加した7人が本紙記者から記事の書き方などを学んだ。

参加者は5日に「第32軍司令部壕の保存・公開を求める会」の瀬名波榮喜会長(95)から戦争体験や32軍壕保存への思いなどを聞き取り、それぞれ記事を執筆していた。

## 次世代継承事業で高校・大学生

### 「伝える責任 重さ感じた」

今回のワークショップでは本紙学芸部の又吉嘉例記者が、戦争体験の記事にする意義やさまざまな記事の形式について説明。その後、生徒や学生が書いた記事を添削しながら、読み手に分かりやすく伝える方法、県史など資料を使いながら事実関係を確認する方法を紹介した。

首里高2年の久手堅世奈さんは「記事を書く中で録音を聞き直したりすることで、瀬名波さんのお話がより理解できた」、名桜大4年の奥芳樹さんは「インタビュウでは戦争の残酷さが鮮明に伝わってきた。戦争について伝える責任の重さを感じた」と話した。那覇国際高3年の大野陽菜さんは「戦争体験を間近に聞いて、世界で起こっている戦争は人ごとではないんだと実感した」と語った。

ワークショップは、県の沖縄平和啓発プロモーション事業「御万人びーすふるアクション」の一環。今後、参加者はそれぞれがまとめた記事を瀬名波会長に手渡す予定。(社会部・富銘悠)